

カラフトモモブトハバチ (別名 カラフトアシブトハバチ, ウチダアシブトハバチ)

6～9月にカンバ類の葉を食べる大形の黄色や緑色のイモムシ(幼虫)。最大長約50mm。体の模様には変異があり、ときに横に黒い斑紋が現れる。

市街地の街路樹のシラカンバでときどき多発する。



1. 老齡幼虫, 45mm. 1995/7/31.

上士幌町, シラカンバ.



2. 雌成虫, 21mm. 1を飼育.



3. 中齡幼虫, 体長22mm. 1993/7/11.

新得町, ダケカンバ.



4. 繭, 長さ30mm. 1993/9/21.

帯広市, シラカンバ街路樹.



5～6. 終齢幼虫, 体長45mm.

多発し, 餌不足になった.

1993/9/21.

帯広市, シラカンバ街路樹.

【学名】 *Cimbex femoratus*

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera), ハバチ亜目 (Symphyta), コンボウハバチ科 (Cimbicidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国; ユーラシアの温帯から亜寒帯に広く分布.

【生態】

宿主: カバノキ属 (シラカンバ, ダケカンバなど). ウダイカンバでは観察していない.

年1回発生. 落葉中に繭を作り, その中で前蛹で越冬する. 7月頃に発生する幼虫は翌年成虫になる. 9月に発生する幼虫では繭内で二冬以上過ごすものがある.

出現時期は変異が大きい. 成虫は6～7月に, 幼虫は7～9月に出現する. 街路樹で多発するものは, 成虫が7月に幼虫が8～9月に出現する.

雌成虫は葉表の表皮下に卵を1個ずつ埋め込む. 幼虫は葉を縁から食べる. 刺激すると体の側面から無色無臭の体液を勢いよく放出する. 体液に毒性はなく, 機能や意義はよくわからない. 成長すると落葉中や土の浅いところで繭を作る.

【被害と防除】

1978年に札幌市の庭木のシラカンバで初めて被害が記録された. 以降, とくどき市街地で多発が観察されている. なお, 過去の被害はキイロアシブトハバチやコンボウハバチの1種などとして記録されている.

駆除する場合は幼虫や繭を取り除く.

【文献】

1979. 小泉力. 昭和53年度北海道に発生した森林害虫. 北方林業, 31: 160-164. (被害記録)

1980. 北海道森林昆虫談話会. 昭和54年度北海道に発生した森林害虫. 北方林業, 32: 159-163. (被害記録)

1983. 北海道森林昆虫談話会. 昭和57年度北海道に発生した森林害虫. 北方林業, 35: 178-182. (被害記録)

1994. 福山研二, 前藤薫, 東浦康友, 原秀穂. 平成5年度に北海道で発生した森林昆虫. 北方林業, 46: 291-294. (被害記録)

2000. Hara, H., and A. Shinohara. A systematic study on the sawfly genus *Cimbex* of East Asia (Hymenoptera, Cimbicidae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 6: 199-224. (分類, 形態, 寄主)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カラフトモモブトハバチ habahoka/karamomo/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/24.

2yochu.JPG, 2seichu.JPG, yochu1.JPG, 1mayu.JPG, 1yochu1.JPG, 1yochu2.JPG

「写真1～6」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1993-1995.